



★1960年 国分寺市生まれ

子どもの頃から生き物が大好き。将来の夢は獣医さんだった。

★小学校教員

大学では生物学を専攻、大学院では教育学を学ぶ。卒業後、小学校の教員となり、子どもたちと畑を耕したり、子豚を学校に連れてきたり、ユニークな教育実践をおこなう。

★個人ボランティアとしてタイの農村へ

タイの村の子どもたちとの出会いをきっかけに、2年間タイに移り住む。帰国後に結婚。日本とタイを行き来しながら、教育をテーマに、日タイ交流活動に取り組む。

★子育てグループ「野戯の森」

1995年、あきる野市へ転入。1997年、長男の出産を機に日本での生活に比重を移す。近隣の母親たちと子育てグループ「野戯の森」を作り、大澄山や平井川で自然遊びをおこなう。

★「川原で遊ぼう会」

2000年、友人たちと「川原で遊ぼう会」を立ち上げ、平井川で自然観察会と環境保全のための活動を始める。行政との協働活動として「平井川こどもの水辺」を進める。

★脱原発の市民活動

2011年、福島原発事故に衝撃を受け、4月に友人たちと「さよなら原発～にしたま～」、6月に「チャイアのネット（放射能汚染から子どもを守るあきる野ネットワーク）」を立ち上げ、活動を始める。

2002年～2012年 老人介護施設でケアワーカーとして働く
2000年～現在 平井川流域連絡会（東京都建設局）委員
2009年～現在 あきる野市自然環境調査員

<著書>

絵本『季節はめぐる ～3.11後を生きる里山のくいのち>たちへ～』（2012年 「戦争と性」編集室）
『タイ教師と見た夢の国ニッポン』（1994年 ビジネス社）
『ネイチャーゲーム原典 シェアリングネイチャー』（共訳）（2012年 日本ネイチャーゲーム協会）

♥「辻よし子と歩む会」は、一緒に動いてみませんか？
おととしの東日本大震災
と福島原発事故をきっかけに、政治を一般市民の手元に引き寄せたいと思った無党派のあきる野市民が集まってできました。この「通信」も、有志のカンパで手作りしたものです。「もっと暮らしやすいあきる野にしたい」「緑と水の豊かなあきる野を守りたい」「自分たちの声が届く市政を」などと思っている方は、一緒に動いてみませんか？ お待ちしています。

おうえんします！

現状を冷静に見極め着実に前進する人。ひとたび思い立てば電光石火。3・11後数々の会を立ち上げ、そこに人々が共鳴し集結した。十数年続く観察会では子どもの好奇心を引き出し、自然調査では経済第一主義ではない社会を見据える優しい眼差しがある。今回辻さんの想いと行動に改めて敬服するとともに、アクションは一人一人の一步から！と日々励まされている。

「川原で遊ぼう会」 竹俣 祐子

聡明な温かさ、沈着と果敢、澄んだ声と素っ頓狂な行動が仲良く同居する不思議な人。20代のころ、闊達なタイの子どもたちの姿に魅せられて、なんの組織の後ろ盾もないままに、等身大の日本人女性としてタイ東北部の村に住み着きました。今度はタイの人々が彼女の人柄に魅了されて、村づくりをめざす農民たちとの20数年におよぶ付き合いが、今もつづいています。

教育学者・「日タイ草の根教育交流」
里見 実



「辻よし子と歩む会」
会員募集中！
年会費：1,000円（カンパ歓迎！）
郵便振替
加入者名 辻よし子と歩む会
口座番号 00140-9-430053
ゆうちょ銀行（店番）
〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）
当座 0430053



「辻よし子と歩む会」は、どの党派にも属さない、普通の市民の集まりです。地縁・血縁とも無関係で、何のしがらみもありません。一人ひとりが自分の意志で市政に関わることが、何よりも大切と考えています。

★つぶやきをみんなの声に

市政を変えていくのは、ひとりひとりの市民です。市議会議員はそれを下から支えます。

日常の中で感じる「おかしいなあ」「これでいいのかなあ？」という疑問が、よりよい社会を作っていくための、一つのきっかけです。自分の疑問にフタをせず、声に出し、みんなで考えてみることで何が問題なのか、はっきりしてくるはずです。

一人の疑問をみんなで考えるための場作りを積極的に進めます。



検索

ぜひ、一度ホームページをのぞいてみてください！
「辻よし子と歩む会」で検索

「辻よし子と歩む会」通信第3号（特別版）2013年4月1日発行
☎ 197-0804 あきる野市秋川 4-1-6-103
電話：090-2258-8691 FAX：042-550-3646
e-mail：kusasigi@nifty.com 共同代表：柏倉倫子・岩田純子
http://www.geocities.jp/yt_ayumukai/

小さな声がつながる
手作りの市政を



★わかりやすく伝える

市民が、いざ、市政の問題に関わろうとしたとき、どのような情報をどこに行けば得られるのか、なかなかわかりにくいものです。

また、情報を得ようとしても入手できなかったり、手に入れた情報が難解でわかりにくい場合も少なくありません。

そうした中、必要な情報を集め、市民にわかりやすく伝えることが、市議会議員の大切な役割の一つです。



大切にしている
3つのこと

★すべては現場から

様々な問題を考える上で、私が大切にしたいことは、現場をていねいに見ることです。資料や会議に振り回されるのではなく、現場に行って当事者の生の声を聞き、そこで感じたことや直接学んだことを大切に、問題の解決策を探る姿勢を貫きます。

特に、お年寄り、子ども、障がい者、外国籍の人など、マイノリティー（社会的弱者）にかかわる問題は、小さな声、声に出せない声を聞くために、現場を訪ねることが不可欠です。



★改めて、脱原発を市政から

福島原発事故がなかったかのように、原子力政策を強引に進めようとする動きが加速しています。しかし、福島原発事故は収束のメドも立たない上、「処理できない核のゴミ」「原発労働者の被ばく」「地震列島での安全性」「福島原発事故の責任と被災者の救済」など、原発が抱える問題は何も解決していません。

私は、子どもたちの未来に対する責任として、原子力発電所の再稼働に反対し、早期の原発からの撤退を求めます。原発は国政にかかわる問題ですが、市政においても脱原発の意思を示すことができます。

＊議会で再稼働停止等を求める意見書を国に出す。
(地方自治法第99条の規定による)

＊市長が脱原発首長者会議 <http://mayors.npfree.jp/> に参加する。

また、あきる野市として原発事故被災者に対する救済を進めることができます。

＊市として放射能汚染地域の子どものたちを対象にした保養・移動教室を受け入れる。

＊原発被災地からあきる野市内に自主避難している人々を支援する。

＊原発事故被災者支援法の早期実現を求める意見書を提出する。(地方自治法第99条の規定による)



★市民の声を生かす市政に

政府の原発政策について、たくさんの人々が意見を寄せました(パブリックコメント)。大多数の意見は原発をなくす方向のものでしたが、当時の政府は原発を再稼働させ、今の政府は原発の新設さえ言い出しています。市民の声が反映されない政治が、一層、政治不信を作り出しているのです。あきる野市でも、市の事業に対して「パブリックコメント」は行われていますが、残念ながら、寄せられた意見を生かしているとは思えません。もっと市民の声を反映できるように取り組みます。

後半は、次号で。

基本政策 ～足元からの変革を～



★開発事業の見直し

これまでは経済効果や利便性が優先され、多くの開発事業が進められてきました。それによって引き起こされたさまざまな環境破壊が社会問題化しているにもかかわらず、数十年前に計画された事業が今も進められています。今必要なことは、立ち止まって考える勇気です。

市内で計画されている開発事業について、まずは私たち市民が事業の内容について知り、今の時代に照らし合わせ、かつ、将来を見通して必要な事業であるのか再検討したいと思います。

そして、不必要な事業についてはNO!の声をあげましょう。

＊小平市では、50年前に計画された都道の建設の是非をめぐり、住民投票がおこなわれようとしています。

★給食センターの建て替え

現在、あきる野市では老朽化した給食センター(市内の小中学校の給食を作っているところ)の建て替えを計画しています。

しかし、ただ古くなった建物を建て替えるだけではありません。市では、次のような計画案を出しています。

＊現在、3か所にある給食センターを1か所にまとめる。

＊民間委託にする。

他の市町村では、学校毎に給食を作っている(自校方式)ところもあります。

「給食を作っている調理員さんの顔が見え、交流が深まり、作っている人への感謝の気持ちが育つ」

「地産地消が容易にできる」

「できたての給食が食べられ、献立のバリエーションも広がる」

など、子どもたちにとって大きなメリットがあるからです。現在の市の計画案は、主にコスト削減が目的になっています。財政面も考慮しながら、子どもたちにとって望ましい給食とは何か、もっと市民が意見を出し合って、みんなで考えていきませんか？



取り上げたい市の課題

他にも、まだまだありますが、続きは次号で。

★新しく始まるゴミの焼却

私たちの出しているゴミのうち、「燃やすゴミ」は、あきる野市高尾にある焼却炉で燃やし、出た灰は御前石最終処分場に埋めています。「燃やさないゴミ」は、破碎してその

まま最終処分場に埋めています。その焼却炉が老朽化し、来年度から新しい炉が使われることになりました。新しい炉の名前は「ガス化溶融炉」。「燃やすゴミ」も「燃やさないゴミ」も、ガスを燃料にして高熱で溶かす「新型」の炉です。そのため、分別の必要がなくなる予定です。

他の市町村では、ゴミを「ゴミ」にせずリサイクル資源にするため、徹底的な分別を進めているところもあります(ゼロ・ウェイストと呼ばれる)。

新炉も20年後には使用年限を迎えます。それまでを猶予期間と考え、私たちも生ごみの堆肥化をはじめとするゴミの再利用を図り、ゴミを作らない暮らしの在り方を、今から考えていきませんか？

